

平成17年度～平成19年度 *English Lounge* 実践報告

Report of *English Lounge* through 2005 to 2007

廣田 則夫* 牧 秀樹** 笠井 千勢***

Norio HIROTA, Hideki MAKI and Chise KASAI

1. はじめに

グローバル化した現代社会においては、コンピュータやインターネット等の情報機器リテラシーだけでなく、文化の多様性を受け入れ、国際語としての英語を使いこなし、他者の考え・意見を聴くと同時に、自分の考え・意見を表すことのできる能力、即ち、広い意味でのコミュニケーション・リテラシーが必要とされる。

岐阜大学の中期目標・中期計画においても、「国際交流」と「留学生教育」など、大学の国際化を積極的に推進し、「情報化・国際化した社会に適応できる人材」の育成をめざし、「国際理解の手段となる英語運用能力の強化」が望まれている。大学に入るまで、ともすれば「聞く・読む」といった「受動的」な面に学習の力点が置かれがちな状況の中で、「能動的な言語使用の場」を学内に構築するため、平成17年6月に、岐阜大学国際交流委員会主催で、*English Lounge* が始められた。以下は、平成17年6月6日（月）のOpeningの際の挨拶の一部である。

…There are many facilities and opportunities to learn English on and off campus. But we have almost no chance to realize that we are learning English to have and enjoy a communication with people from different countries, to experience that English is a language for international communication. This *English Lounge* is

started to help all the members of Gifu University (Japanese students, teaching and administrating staffs, and international students) to use English in the real situations and exchange ideas and opinions with others in English… (Hirota)

つまり、国際コミュニケーションの手段のひとつとして英語を学ぶことはあっても、実際に英語を使ってコミュニケーションを行う場がほとんど無い状況にあって、「学生の豊かな国際性と実践的英語コミュニケーション能力の育成に寄与する為、日常的に英語が用いられる環境を学内に作ることを主目的として始められ、現在に至っている。

本報告は、平成17年度から平成19年度までの3年間の実践報告である。

2. *English Lounge*の実施概要

期間：*English Lounge*は、平成17年6月に第1回を開始して以来、原則的に長期休暇期間中を除く第1・第3月曜日に行われている。

場所：季節によって、産官学融合センターのインキュベーション施設ロビー及び中央図書館1階会議室を利用。（多くの参加者が予想された場合には、学部の大会議室を利用。）

時間：昼休みを利用して、12時10分開始、12時45分終了。

広報：学内のプラズマディスプレイ、各学部の掲示板及び生協店舗内にビラを張る。

* 岐阜大学教育学部 教授

** 岐阜大学 地域科学部 准教授

***岐阜大学 地域科学部 准教授

*English Lounge*は、平成17年度、18年度、19年度の岐阜大学学内活性化経費（教育）を受けて実施されている。



(プラズマディスプレイによる案内ポスターの一例)

また、希望者には、ほぼ1週間前にメールにて連絡。平成18年9月より、AIMS-Gifu上にコミュニティ「English Lounge」を設置し、そこでもアナウンスを行っている。

Hi! Friends, November 27th Session of English Lounge is going to be held at the Conference Room of the Main Library (1st floor, ground level) from 12:10 to 12:40. The topic will be "My Dream: What AM I Doing 5, 20, 30 Years from Now?" (AIMS-Gifu上のアナウンスの一部)

運営： 国際交流課(当時、現在は国際交流係)との共同で、教育学部の廣田・大和(平成18年4月転出)及び地域科学部牧・笠井の3(4)教員が実質的に担当。

3. 具体的実施方法

通常のENGLISH LOUNGEの集まりは、毎回「テーマ」をあらかじめ知らせ、(当日の参加者をランダムに4~5名程度のグループに分けて)グループ毎に「テーマ」について話し合う形で実施された。以下に、これまで取り上げたテーマの一部とその参加者数(丸括弧内)を示す。

- What I like and do not like about Gifu University (30)
- What I like and do not like about Gifu University no.2 (24)

- What do you think is unnecessary on campus? (38)
- Things I would like to have on campus (14)
- My favorite movie (19)
- Traveling: The Countries I've Been to/The countries I would like to visit (15)
- New Year's Resolution
- The Return of English Lounge: First meeting (36)
- Books that You Recommend to Your Friends (33) [4.2]
- What are You Enthusiastic about? Sports? Movies? Hobbies? Or Studies? (28)

また、学内の教員あるいは海外から本学を訪問した研究者による講演及びその後の質疑応答・歓談を行い、English Loungeを「生の英語運用の場」としてきた。

地域科学部のRussel教授による「差別」に関する講演、シドニー大学のソニア・ミツァック博士による「オーストラリア英語・文化」に関する講演、そして平成19年度末に行われた黒木学長(当時)との英語による懇談なども実施された。

4. 参加者について

4.1 人数

ENGLISH LOUNGEは、日本人学生に限らず留学生及び職員全体に参加を呼びかけてきているが、各回の参加者数は平均すると25名前後である。これまでの総参加者151名の内訳を示せば、次のようになる。

日本人学生(学部生・院生)	108
留学生	25
職員	11
その他(客員教員, フェロー等)	7
合計	151

(表1)

3年間に渡って実施しており、その間卒業な

どにより出入りがあるため、一人あたりの参加回数を計るには、少なくとも4年以上の継続的な実施が必要であるが、実施開始時に1年次生であった日本人学生の場合、参加可能回数20回程度の内半分以上参加しているのが7割を越えている。いわゆるリピータの割合が高い。

また、日本人参加学生108名の所属学部は、次のようになっている。

教育学部	63
地域科学部	11
医学部	6
工学部	9
応用生物科学部	11
その他（所属不明を含む）	8

(表2)

4. 2 満足度

ENGLISH LOUNGE終了時に、参加者の満足度を測るために簡単なアンケートを実施している。5段階評価の「全体」に関する満足度は、平均3.9で、全体的には、参加者からかなり肯定的な評価を受けている。が、テーマによって参加者の評価は大きく変わるようである。たとえば、

テーマ	興味	満足度
好きな果物	4.0	4.5
旅行	4.5	4.2
地球温暖化	3.4	3.7
人種差別	3.2	3.4

(表3)

話しやすく簡単なテーマであれば、評価は高く、少し難しく「まじめな」テーマになると低くなる傾向が見られる。

活発で有意義なコミュニケーションには、「話す・書く」といった「能動的な能力」と「聞く・読む」といった「受動的な能力」がバランス良く備わっていることが望まれるが、English Loungeの参加者のアンケート結果からは、このバランスがあまりとれていないことが窺われる。

つまり、「積極的に話した」と「積極的に聞いた」という評価項目の平均値は、それぞれ3.4、4.4で、受動的な能力に比べて、能動的な能力が足りないと感じているようである。この傾向は、テーマの難しさが増せばますますほど、差が広がっていくようである。

バランスのとれたコミュニケーション能力を身につけるためには、語彙力を高めること、そしてそのためには、「柔らかいテーマ」だけでなく、少々「堅め」のテーマについても、普段から意識して話題にし、学んで行くことが求められる。参加者たちは、このことを十分に理解しているようである。このことは、評価の比較的低かったテーマについての「参加者の声」(自由記述)から明らかであろう。

1. 難しい話題でした。
2. I talked than I expected. It's relatively good conference.
3. 今日は、以前よりも自分から話せて良かった。今回は自分から質問できるといい。
4. ちゃんと自分も話せるようにしたい。
5. 自分の言いたいことがいえなかった。一文だけで終わってしまったので、何度もやっていくうちに文章を増やしていきたいと思う。
6. 今日はdiscriminationについてはあまり話が出来ませんでした。他の話題について楽しく会話できました。なかなか上手にしゃべれません。。がんばります。
7. 身近なところにblack peopleがいないと、どうしてもstereotype的な見方をしてしまう。ラッセル先生の話を聴くことが出来たので、その知識を使って多少話を膨らますことが出来たと思います。Thank you.
8. 差別問題は、日常生活の中であまり接することのないトピックなので難しかったがとても勉強になった。
9. やっぱり英語はしゃべれない。
10. 前よりは話すことが出来たけど、まだ何を言っているかわからなくなってしまうので、次回はもう少し話に入っていけるようがんばります。
11. またまた、うまくしゃべれなかった。というよりは、言いたいことの考えがうまくまとまらなかった。しかし、前々回ぐらいから話し合ってきたことで、差別に対しての考えが深まったと思える。
12. 前回少ししか話が聴けなくて残念でした。次はもっと

と話せるようがんばりたい。

13. 前回の講演によって少し具体的な話が出来た。ただ漠然と黒人について話すのはとても難しく、差別は解決するのに非常に難しい問題であることもわかった。
14. 自分の思っていることを英語でしゃべるのはすごく難しいと思いました。しかし、今回のテーマは日本語でも不可能かもしれません。。。もっと精進します。もっと話せる「度胸」が必要だと思った。
15. 反論をしようとする、頭の中が複雑になりなかなか言葉が出てこなかった。自分的にはラッセルさんは黒人被害者意識過剰な部分があるって言いたかったけど。
16. テーマが難しかったので、英語にするのがいつもより難しかったです。
17. 月曜日は忙しいので出来れば水曜日などにしてほしいです。こうやって積極的に話せる場があるのは、とてもありがたいです。これからもつづけてほしいです。
18. 全然話せませんでした。
19. 自分もうまく話せなかったし、周りの子もうまく質問したりして振ってあげられなくて残念だった。
20. 今日は4年や3年の先輩に引っ張ってもらって、何とか会話に加わることが出来てうれしかったけど、自分の英語の乏しさに悲しくなった。言いたいことがうまく伝えられなくて誤解を与えていそうだと思う。
21. 何も言えませんでした (相槌のみ)自分の考えをしっかりと英語で話せるように、他の人の意見が理解できるようになりたいです。
22. 言いたいことがまったく言葉にならなくて困った！！もっと勉強しなきゃー
23. はじめてきて何を話せばいいか分からなかったけど、次もぜひ参加して一緒に話してみたいと強く思いました。今日勇気を出してきてみて本当によかったです。
24. 楽しくお話をしました。

5. まとめ—今後の課題

ENGLISH LOUNGEは、現在も継続中であり、参加者数もわずかずつではあるが増えてきている。が、今後の展開の上で、いくつか課題も明らかになってきた。

- ① **開催時間**を月曜日の昼休み40分程度としているが、もっと長い時間を望む声もある。参加者の中で多数を占める教育学部の学生

のカリキュラムが過密なため、昼休みの時間以外では、放課後の開催も考えなければならない。また、これまでは隔週開催を原則としてきたが、少なくとも授業期間中は、毎週同じ時間帯に開催するようにすべきであろう。

- ② **開催場所**についても、季節に左右されず常に同じ場所を確保する必要がある。(テーブルのアレンジを自由に変えられて、ある程度の開放感のあるスペースが望ましい。)
- ③ **外国人留学生**の在籍数が400名前後であることを考えると、留学生の総参加者数が25名(表1)というのは決して多いとは言えない。留学生の多くが、日本人学生と様々な意見交換をし合うことこそが、大学の国際化の一つであろうと考えられる。留学生の参加が少ないのが残念である。
- ④ **学部・専門・国籍・身分**の区別無く、様々な人が共通の話題で話し合うということはコミュニケーションの面白さであろう。参加者の所属・国籍・専門分野などの多様性こそが、活発なディスカッションの原動力になると思われる。その意味では、表1, 表2に見られる現状は、早急に改善しなければならない。
- ⑤ 4. 2の「参加者の声」からも見られるように、参加者の**興味・英語力に2極化**が見られる。つまり、かなり高度な内容について英語で議論することを望む者と、「英会話」を学ぶために参加する者である。大多数の参加者は後者に属し、現在行われているような「授業延長型」のENGLISH LOUNGEに肯定的であるが、「英語を(で)話したい」者が自然に集まって、談笑できるような『**サロン型**』のものなども検討すべきであろう。
- ⑥ バランスのとれたコミュニケーションのために、授業その他の学習の場に加えて、学習してきたものを**口頭で実践**する場として、English Loungeを実施してきたが、これに加えて、e-mailなどを活用した**文書**での**コミュニケーション実践の場**も必要であろう。